

令和 7 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立平岩小学校

学校長名 神重 修治

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

主体的に学び合う社会科の授業づくり

～個別の課題追究と学び合いを取り入れた単元の工夫を通して～

(2) 主題設定の理由

平成 29 年 7 月告示の小学校学習指導要領では、社会科の目標を「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のように養う。」とし、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力に関わる具体的な目標で構成されている。

また、令和 3 年中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」では、2020 年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、①個別最適な学び、②協働的な学びの実現が挙げられている。変化の激しい社会を生き抜くこれからの子どもたちには、広い視野に立ち国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことが必要である。その基礎を養う小学校社会科においては、個別の事実等に関する知識のみならず、それらを使いこなしていく力を育成することや課題を追究したり、解決したりする学習を通して「社会的な見方・考え方」を成長させていくことを主眼に置いた社会科の充実が求められる。

本校では昨年度の研究主題を、「主体的に学び合う社会科の授業づくり ～個別の課題追究と学び合いを取り入れた単元の工夫を通して～」とし、①単元構成②個別の課題追究③学び合いの三つの視点で工夫を行い、社会科における教育研究を推進してきた。その成果と課題は次のとおりである。

① 単元構成の工夫

学年の実態や単元の内容によって、個別の課題追究の時間と学び合いの時間の構成を工夫したことで、児童の学習内容の理解を深めることができた。単元を貫く問いを二段階にして構成したり、学び合いで身に付けたことを生かして再度個別の課題追究の時間を設けたりする等、多様な単元構成が児童の主体性や深い学びにつながった。また、単元末テストの結果からも、この単元で必要な力を十分に身に付けることができたといえる。

しかしながら、単元全体で何を身に付けさせる必要があるのか、教材研究が十分でないため明確になっていなかったことが課題としてあげられる。

② 個別の課題を追究するための工夫

授業の様子や、個別の課題追究の時間が好きと答えた児童は 91%という児童アンケートの結果からも、児童は個別の課題追究の時間に主体的に学習に取り組むことができたと考えられる。教師が工夫した学習コーナーは、児童の興味をひき、意欲的な学習につながっていた。また、学年で利用できる

場所にも限りがあり、多くの学習コーナーなどを設置することが難しい本校にとって、ICTの活用は、児童の理解を深めるにあたり、効果的であった。さらに、どの学年も児童の実態に応じてワークシートや学習の手引きを作成しており、それに沿って児童が自主的に学習に取り組むことができていた。

一方で、個別の課題追究の時間において、本校職員の研修や授業評価票では、以下のような課題も明らかになった。

- ・何をつかませるために設置した学習コーナーなのか明確になっていない。そのため、児童が学び合いの時間に活用できるものになっていなかった。使用できる場所にも限りがあるため、もっと学習コーナーを精選する必要がある。
- ・ワークシートが、児童が学びたくなるようなものになっていない。穴埋めだけであったり、考える際のヒントとなる手立てがなかったりして、児童の意欲を高めるものになっていなかった。また、ワークシート上での指示の出し方が曖昧なため、児童がどのように取り組んだらよいか、迷う場面も見られた。
- ・教師の役割が不明確であった。児童の様子を見ながらどのように声掛けをしていく必要があるのかを考えていく必要がある。

③ 学び合いの質を高めるための工夫

学び合いの時間において、教師が問い直しや繰り返し発問をして、児童の知識をつなげていくことにより、児童の理解を深めることができた授業もあった。また、個別に学習しても解決できない、全員で考えるべき課題を設定することで、学び合う必然性が生まれ、児童が主体的に学習に取り組むことができた。また、導入等で児童をひきつける資料を提示したり、単元で身に付けた知識を活用したりして、児童の思考が深まっていく姿が見られた授業もあった。また、友だちと話し合う場面を設定することで、多様な考えに触れ、個々の考えが広がったり深まったりする姿も見られた。

一方で、学び合いの時間において、本校職員の研修や授業評価票では、以下のような課題も明らかになった。

- ・児童の思考を深める発問が効果的でない。なぜ考えなければならないのか、何を考えさせるのか、明確な問いになっていない。また、児童の発言に応じて、問い返したり繰り返したりすることで、児童の思考をつなげていく必要がある。
- ・学び合いの時間で思考する際に必要な知識・技能が、個別の課題追究の時間に十分に身に付いていない。
- ・学び合いの時間に捉えさせたい知識や考え方等について、全体で思考する時間が不十分であった。また、学び合いで捉えさせたい内容も不明確だった授業もあった。

これらの課題から、単元全体で付けたい力や単元のねらいを明確にして単元構成を考えることが何より重要であり、そのためには教材研究や教材分析が欠かせないといえる。その上で、本単元における学び合いで、児童にどのようなことを捉えさせるのかをまず明らかにして、それにつながる個別の課題追究の時間にしていく必要があることが分かった。個別の課題追究の時間には、主体的に学習に取り組むことができるようにすることはもちろんのこと、多様な資料を活用したり、体験させたりするなどして、付けたい力を身に付けることができるようなワークシートや学習コーナーを工夫する必要があると考える。また、児童が主体的に学習に取り組むためには、本単元でのゴールに向かうための問いや言語活動をしっかりと吟味していく必要があることも分かった。

(3) 研究仮説

単元の中で、意図的に個別に課題を追究する時間と学び合いの時間を設定し、児童が主体的に考える授業を創り出せば、児童は社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる社会的な見方・考え方を獲得することができるであろう。

(4) 研究内容

以上の点を踏まえ、「主体的に学び合う社会科の授業づくり～個別の課題追究と学び合いを取り入れた単元の工夫を通して～」のさらなる具現化に向けて、今年度は以下のことに取り組みたい。

①単元構成の工夫

- ・教材研究や教材分析をしっかりと行う。
- ・単元や本時における児童に身に付けさせたい知識を明確に設定する。(どのような記述的知識、説明的知識、記述的知識なのか整理する。)
- ・単元を貫く問いを設定する時間を工夫する。(導入時の一斉授業で、児童がその単元を学びたいと思えるような資料提示や活動を行う。)

②学び合いの質を高めるための工夫

- ・何を身に付けさせる時間なのかを明らかにして、授業を構成する。(個別の課題追究の時間での何を学び合いで活用するのか、つながりを明確にする。)
- ・考えたくなる質の高い問いを設定し、選択、判断、評価、議論なども含めた多様な思考のさせ方を取り入れる。
- ・身に付けさせたい知識に応じた資料の精選・活用方法を工夫する。

③個別の課題追究の時間における工夫

- ・単元全体で何を身に付けさせるための学習コーナーやワークシートなのか、ねらいを明確にする。
- ・ワークシートや学習コーナーでは、児童が学びたくなるように工夫する。(指示の出し方、友だちと話し合って考える場面の設定など)
- ・ICTを効果的に活用する。
- ・自分の学び方と学習内容の振り返りを毎時間行う。

また、低学年部(国語科)においても同様の工夫をしていく。

(5) 検証の方法及び指標

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
児童の学び合いの姿 個別の課題追究の手立て 学び合いの質を高めるための手立て	授業評価票	教師の肯定的評価	評価票 3 以上
児童の基礎学力の定着	単元末テスト	思考・判断・表現 知識・理解 を問 う問題	正答率 80%以上の児童を学級の 8 割以上
単元で付けたい力の定着	児童のまとめや振り返りの内容	児童の記述	目指すまとめや振り返りができる児童 80%以上
児童の意識	児童アンケート	児童の肯定的評価	児童の肯定的評価 3 以上

2 検証計画

検証時期	検証内容	検証方法
6 月	児童の実態把握	児童アンケート
7 月～12 月	校内研究授業 単元終了後	研究協議・授業評価票・児童のまとめや振り返り 単元末テスト
12 月	児童の実態把握	児童アンケート
	研究のまとめ 成果と課題の分析	児童アンケート・単元テスト 授業評価票・児童のまとめや振り返り

3 校内研修計画

日にち	研修スタイル	主な研修内容	指導者
4 月	研究推進委員会	校内研修計画・研究主題について 昨年度の研究の振り返り	
5 月	全体研修（研究開き）	今年度の研究主題について 校内研修計画について	研究主任
6 月	全体研修（理論研修） 全体研修	個別の課題追究について 研究授業（4 年） ※長期研修	指導主事 研究主任 河田先生
7 月 夏休み中	全体研修 全体研修 全体研修 ブロック研修	指導案について 研究授業内容決定 教材研究 研究授業（特別支援学級） 各ブロックでの研修	研究主任 教務研修部 山崎先生
8 月	ブロック研修	教材研究 指導案検討（日程については後日提案）	教務研修部
9 月	全体研修	6 年部研究授業	教務研修部・指導主事
10 月	ブロック研修 ブロック研修	3 or 4 or 5 年部研究授業 1 or 2 年部研究授業	教務研修部・指導主事 教務研修部・指導主事
11 月	全体研修	3 or 4 年部研究授業	教務研修部・指導主事
12 月	ブロック研修 全体研修 全体研修	3 or 4 or 5 年部研究授業 1 or 2 年部研究授業 研究紀要について	教務研修部・指導主事 教務研修部・指導主事 研究主任
1 月	全体研修・ブロック研修	研究紀要見直し・まとめ	教務研修部
2 月	全体研修	研究のまとめなど	指導主事・研究主任
3 月	全体研修	今年度の振り返りと来年度へ向けて	研究主任